教育センター通信

火床（ほど）の火の心を紡ぐ

第５号（通算８８号）
令和３年９月２９日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター　発行

「逆転の発想」を取り入れて教育活動のさらなる充実を

小中一貫教育推進課　指導主事　相田　覚

「道路の拡幅は、児童生徒の安全な登下校につながる。」私がこれまで確信をもっていた考えでした。しかし、ある道路拡幅工事にかかわる通学路合同点検の際に、三条警察署の担当者から「道路を拡幅することで、車を運転する人は運転しやすくなり、自然にスピードが出るので危険が増える面もある。」というお話を伺いました。幅の狭い道を運転する時は、注意深くスピードを落として運転している自分を振り返り、「なるほど」と思った瞬間でした。

このような、「逆転の発想」は自分の周りにたくさんあるのだと思います。逆転の発想は、対話を盛り上げたり、考えを深めたり、雰囲気を前向きにしたりします。例えば、担任する学級の子どもが骨折してしまったピンチを、学級のみんなで何かできることはないかと行動することで、思いやりや感謝の心、団結力が育つチャンスにできます。数学で、「もし～でなかったら」という逆転の発想は、命題の本質を明らかにしたり、数学の美しさや楽しさを感じ取ったりすることにつながります。学校のきまりについて考えるときに、「このきまりはどうして必要か」と併せて「このきまりがなかったら、どうなるか」と逆転の発想で考えることで、このきまりの本質が見えてきます。

改めて考えると、「急がば回れ」や「押してだめなら引いてみろ」も逆転の発想です。逆転の発想を、学級経営や授業、生徒指導などに取り入れることで、教育活動がさらに充実したものになると考えます。

わくわく科学フェスティバル

今年度は、新型ウイルス感染症の感染状況に鑑み、次のような開催方法で８月 18 日に実施しました。

・参加者を小学校５･６年生と義務教育学校５･６年生とし、参加数の上限を設ける（午前・午後各 50 人）。
・午前と午後で参加者を入れ替え、飲食を伴わないようにする。
・会場を三条市立大学とし、一部屋に1ブースを設置する。計5つのブースを時間で区切って回るようにし、一部屋に入る人数を減らす。

＜各ブースの紹介＞

三条市立大学
「見えない世界を、さあ見に行こう！」

流体や振動について、普段は観ることのできない世界を特別な方法で観察しました。

（株）コロナ　様
「光と色の不思議」

分光器を使用した装置を作成して、「虹がカラフルな理由」などについて考えました。

建築･住教育研究会　様
「地震に強い家の仕組みを体験してみよう」

三角形という形に着目して、耐震構造について変形する構造・しない構造を作りました。

三条市立理科教育センター
「ハラハラドキドキ～低温の世界～」

液体窒素を用いて様々なものを凍らせながら、「凍る」という現象を考えました。

三条市立第一中学校科学部
「スライムをつくろう」

中学生に教わりながら、自分の好きな色を選んで、スライムを作りました。

参加した子どもは、５つのブースを順番に回り、様々な観察や実験に目を輝かせながら取り組みました。「また来年も参加したい。」という声が多く聞かれました。

たくさんのおみやげもでき、みんな笑顔で帰りました。

＜参加した子どもの感想＞

いろいろなテーマのところでいろいろなことを学ぶことができた。昨年などと違うやり方でまわったけれど同じように楽しむことができた。

身近にあるのに気付いていないようなものの存在や仕組みを知ることができたのでとても楽しかった。

理科のことが好きになった。いろんな実験を見たりやったりして楽しかった。

科学のすばらしさや進化を体感することができた。これからも続けてもらいたい。また参加したい。

令和３年度
三条学講座
【第１～第４回紹介】
（全７回）

【講座開設の願い】
講座を通して教職員が、三条のよさ、すごさを知り、三条の「ひと」や「もの」、自然への理解を深めてほしい。それを子どもたちに伝え、「ふるさと三条」を愛し、誇りに思う子どもの育成につなげてほしい。

第１回三条学講座　歴史講座１「歴史の偉人　諸橋轍次博士」　６月４日（金）

６月４日（金）、諸橋轍次記念館で第１回の三条学講座を実施し、９人の受講者がありました。なぜ６月４日に実施したのか、その理由を知っている方はいらっしゃるでしょうか？答えは、６月４日は、諸橋轍次博士の誕生日だからです。博士は、明治 16 年６月４日に下田村（現三条市）にお生まれになり、「大漢和辞典」の編纂等、生涯を通じて漢学研究に情熱を傾けられた方です。毎年、その日に歴史講座１を開催しています。今年度も、「大漢和辞典」の編纂者である博士の偉業や人となりについて学びました。記念館の嘉代館長からの講話後、館内の博士の遺品、遺墨等を見学しました。記念館は、郷土の偉人である博士を知るすばらしい施設です。まだ一度も来館されていない方は、ぜひ来館してみてください。

第２回三条学講座　包丁研ぎ講座「包丁研ぎの実習」　８月４日（水）、５日（木）

８月４日（水）、５日（木）の２日間、三条鍛冶道場を会場にして半日日程で計４回開催し、合計 34 人の参加がありました。「包丁研ぎ」とは、ものを大切にする日本の文化で、「砥石」を使って、１本の包丁を長く使うという文化です。三条市では、刃物ものづくり教育の一環として、中学校在学中に１回は経験できるよう「包丁研ぎ学習」を実施しています。

講座の最初に、長谷川館長から、大きく３つの内容で「包丁研ぎ」の講義を受けました。①「包丁の種類の説明」：大きく包丁には、片刃包丁（刺身包丁・出刃包丁～地鉄の片面だけ鋼を合わせた包丁で、表面と裏面があり、切れたものの断面がきれいで離れやすい）と両刃包丁（三徳・菜切・牛刀～地鉄の間に鋼が入り、表裏がない包丁）があります。この種類によって研ぎ方が変わります。②「砥石の説明」荒砥（＃300）→中砥（＃1000）→仕上砥（＃3000）の３種類があります。※＃は、粒度で、粒の細かさです。③「研ぎ方・砥石管理」：砥石の図で、実際に刃の当て方、研ぎ方、砥石の管理について学びました。

実習では、三条鍛冶道場の指導員の方から、研ぎ方の見本を見せてもらいながら、受講者が持参した包丁を自ら研ぎ、最後の仕上研ぎ後に、新聞紙に斜めに刃を当て、その抜群の切れ味を確かめていました。

包丁研ぎ実習

第３回三条学講座　和釘づくり講座「和釘づくりの実習」　７月 30 日（金）

７月 30 日（金）、三条鍛冶道場で、５人の参加で、和釘づくり講座を実施しました。伊勢神宮の平成 25 年第 62 回式年遷宮では、和釘 20 数万本を三条の職人が１本１本叩いて、納品しました。三条の伝統技術が日本の伝統を支えています。洋釘の寿命は 50 年、和釘は 1000 年と言われています。実習では、階折釘（かいおれくぎ）と巻頭釘（まきがしらくぎ）の２種類を、実際に火炉（ほど）に鉄の角材を入れ、金床の上で叩き作成しました。

和釘の作成

第４回三条学講座　歴史講座２「ものづくりのまち三条の歴史を学ぶ」　８月 20 日（金）

８月 20 日（金）、下田郷資料館（ウェルネスしただ内：三条市飯田）を会場に、三条鍛冶の歴史を学びました。最初の講話では、三条鍛冶道場の長谷川館長から、「ものづくりのまち三条のルーツを探る」として、古代（旧・新石器時代）～鎌倉時代（大林遺跡のたたら吹き製鉄）～室町時代（大崎鋳物師の活躍）、着鋼（鋼付け）の技術、現在の技術伝承について学びました。

後半は、田村係長・勝山主査（生涯学習課文化財係）から、２階の資料館で、下田地区の五十嵐川周辺の遺跡（旧石器から縄文時代の石器や土器、弥生時代の鉄斧、鎌倉時代のたたら製鉄）について、実際の出土品をもとに詳しく学びました。

長谷川館長の講話

勝山主査からの展示説明

ICT 教育研修会　８月６日（金）

８月６日に新潟市立東中野山小学校　山本政義校長先生を講師にお招きし、「小学校におけるプログラミング教育の基本的な内容」についての研修会を実施しました。

研修前半はプログラミング教育の理論についての講義を、後半は chromebook を操作しながらの演習を行いました。演習では、授業ですぐに活用できる様々なアプリケーションを紹介していただき、２学期以降の学習に生かせる研修会となりました。

参加者からも「パソコンを使わなくても、アンプラグドとしてどの教科でもプログラミング的思考を学ばせていきたい。また、Web 上でできるプログラミング活動を知ることができてよかった。」等の感想が聞かれました。

コミュニティ・スクール研修　９月 22 日（水）

今年度のコミュニティ・スクール研修は、三条市立大浦小学校の浅井校長先生から御講演いただきました。三条市は、昨年度からコミュニティ・スクールを全市に導入しました。身近な三条市の例は、学ぶところが多く、大浦小学校のよさを生かした温かい気持ちになる御講演でした。

御講演の中では、大浦小学校の学校運営協議会会長の土田英明様から、地域の様子をお話いただくなど、学校運営協議会の委員の方の声を聞くことができました。

今回は、初めてのハイブリット方式（オンラインと対面）で行いましたが、オンラインでのグループも対面のグループも、今、どんなことを学校で取り組んでいるのか情報交換をし、話が尽きることのない様子でした。本研修での内容を今後の学校運営協議会の運営や協働活動に是非生かしてほしいと思います。

グループ協議では、「教員の方やＰＴＡの方、地域の方とこんなふうに話し合う機会が今までなかったのでとても勉強になりました。」との声が聞けました。

６年生が学校運営協議会の話合いの場に参加し、「大浦地域の未来を考える」グループワークを行う魅力的な実践も御紹介いただきました。